



題材	I よく見てかこう -絵に表す-			4・5月(8時間)
目標	くすの木を中心とした風景の形や色の面白さを感じ取り、用いる表現技法や色づかいを工夫して、絵の具でかくことができる。			
評価規準	(①知・技) 水彩絵の具の混色や重色の表現の特徴に気付き、表したい感じに合わせて、表したい色に近い色をつくったり、適切に表現技法を用いたりしてかく。 (②思・判・表) くすの木を中心とした風景を見て感じ取った形や色の面白さを効果的に表す表現方法を考える。 (③主体的態度) 形や色の微妙な違いに興味をもち、くすの木を中心とした風景をじっくりと見つめ、意欲的に表現に取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○幹に触ったり、くすの木の色探しをしたりして、特徴的な形や色を見付ける。  学習のめあて よく見て見付けたくすの木の特徴を、色のつくり方やぬり方を工夫して絵に表そう	○木の形や色の面白さを感じられるように、くすの木を実際に見たり触ったりする時間を設定する。	◇触った感じや見付けた色について発言しながら、くすの木に近付いたり、離れたりにして見て、見付けた特徴的な形や色について発言したり、写真を撮ったりしている。<発言・タブレット③>
あらわす・ひろげる	1  5	○感じ取った形や色の面白さが表れるような構図を考え、画用紙に下絵をかく。  ○葉や幹の感じが出るように、色のつくり方やぬり方、筆のタッチなどを工夫して、絵の具で彩色する。 ・色の混色の仕方について知る。 (薄い色に濃い色を少量ずつ混ぜて調節する。試し紙で試す。) ・本物と同じ色にしようとするのではなく、自分で感じた色に近い色をつくる。 ・ぼかしやにじみを活用したり、葉や幹の質感によって筆のタッチを変えたりして彩色する。	○見付けたくすの木の特徴が伝わる表現方法を考えられるように、友達と見比べられる配置にする。  ○見付けたくすの木の特徴が伝わる表現方法でかけるよう、色のつくり方やぬり方、筆のタッチなど、異なる方法でかく子どもを紹介する。  	◇構図を考え、形の微妙な違いを確かめながら下絵をかいている。<作品②>  ◇自分の表したい色のつくり方やぬり方、筆のタッチなどを試しながらかいている。<行動・作品②>
ふりかえる	1	○作品を見て気付いた工夫を発表し合う。	○構図や配色、表現方法の様々な工夫に気付けるよう、自分自身の表現を伝え合う機会や見合う機会を設ける。	◇構図や配色の工夫、表現方法の工夫などについて気付いたことを記述している。<振り返り①>
共通事項	対象をよく見て、絵の具でかく活動を通して、かく対象の形や色の微妙な違いや変化を捉え、自分のイメージをもつ。			

題材	2 クレイ UMA -立体に表す-			6月(6時間)
目標	自分なりに想像をふくらませた想像上の動物の表し方を考え、粘土の加工方法を工夫して、石粉粘土で立体的に表すことができる。			
評価規準	(①知・技) 立ち上がった粘土の形の面白さを見付け、粘土の立たせ方や切り系やかきべら等の用具を使って表し方を工夫している。 (②思・判・表) 板状や棒状の粘土をバランスよく立てる方法を試し、生まれた形からつくりたいものを考えている。 (③主体的態度) 板状や棒状の粘土を立ち上げ、色々な方法で形を変え立体に表すことに楽しんで取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○へらやのし棒を使いながら、粘土を立ち上げることを知り、自分の好きな方法で粘土を立ち上がらせる。  学習のめあて 粘土の立ち上げ方や用具の使い方を工夫して、自分の想像上の動物をつくろう	○粘土の塊が立体として立ち上がることが分かるよう、板づくりの方法を演示する。	◇立ち上げる方法を選び、粘土を板状にしたり、棒状にしたりし、塊と立ち上がった粘土の印象の違いや立ち上げるための工夫について記述している。 <作品・振り返り②>
あらかわす・ひろげる	3	○用具の使い方を工夫して粘土のバランスや自立を意識し、粘土に働きかけながらつくりたい形をつくる。	○自分なりの想像上の動物のイメージに合わせて、加飾の方法を工夫することができるよう、かきだしべらなどの用具を用意する。	◇いろいろな方向から見ながらついたり、用具や表し方を試したりしながら、自分のイメージに合う方法でつくっている。 <作品①>
ふりかえる	1	○作品に題名を付け、自分や友達の作品のよさや工夫を見付け、伝え合う。	○自分なりの想像上の動物のイメージを意識することができるよう、題名を付けて展示する場を設定する。	◇表現方法の工夫などについて気付いたことを記述している。 <振り返り③>
共通事項	立ち上がった粘土の形をとらえ、つくりたいもののイメージをもつ。			

題材	3 ウッドラボ -工作に表す-			6月(4時間)
目標	様々な木片の形を生かして表すものを考え、両刃のこぎりを適切に扱って様々な木片をつくり、木片の様々な形を生かしてつくりたいものをつくることできる。			
評価 規準	(①知・技) 両刃のこぎりや木エヤスリを適切に扱いながら、木材を切ったり木片の組合せ方を工夫したりして表している。 (②思・判・表) 木片の形や木の質感を生かして、つくりたいものを考えている。 (③主体的態度) 様々な木片を使っていろいろな形をつくることに楽しんで取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○刃を入れる向きを考えながら木材を切ったり、角を削ったりして、面白いと思う形の木片をつくる。 ・両刃のこぎりの扱い方を知る。 縦引き…木目に合わせて切る。 横引き…木目を断つ向きに切る C型クランプ…木材の固定に使用する。  — 学習のめあて — 木の切り方やつなげ方を工夫して、つくりたいものをつくろう	○子どもたちが切った形に変化がつくよう、様々な形の木切れを準備しておく。 ○安全に気を付けて活動できるように、両刃のこぎりの扱い方を助言したり、演示したりする。 ・切り始めは、刃を水平に近付けること ・柄の端を持つようにすること ・刃全体を使うこと ・力を抜いて切るとよいこと	◇ <b>両刃のこぎりを用いて木材を縦引き、横引きで切ったり、切った木片を見比べたりしている。</b> <行動・発言②>
あら わす ・ひ ろげ る	2	○自分で切った木片の中から、面白い形の木片を選び、釘やボンドで接合して、つくりたいものをつくる。	○接合や飾りの方法を試すことができるよう、両面テープ、ボンド、アイス棒を用意した材料コーナーを設定する。	◇ <b>木片を選んだり、木片の組み方を変えたりしながら、接合の方法を選んでつくっている。</b> <行動①>
ふり かえ る	1	○作品を手に取り、自分や友達作品のよさや工夫を見付け、伝え合う。	○つくったものを並べたり、動かしたりすることができるよう、つくったもので遊ぶ時間を設ける。	◇ <b>手に取ったり、並べて遊んだりしながら気付いた、木材の質感や形の面白さについて記述している。</b> <振り返り③>
共通事項	木材を切ったり削ったりする感覚や活動を通して、形や組合せなどの感じを捉え、自分のイメージをもつ。			

図画工作科 4年

題材	4 学校旅行 -鑑賞-			7月(2時間)
目標	校舎内や校庭にある身近な風景を見て、面白さを感じ取ることができる。			
評価 規準	(①知・技) 身近な風景を見て、その一部分を見立てて生まれる面白さを見付け、工夫して場に働きかけている。 (②思・判・表) 見立ての面白さを生かして、場への働きかけ方を考えている。 (③主体的態度) 校舎内や校庭にある身近な風景に関心をもって見ようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○校舎内や校庭にある風景を撮影した参考作品を見て、イメージできるものについて発表し合う。	○同じものや場所でも、見る方向によって見え方が変わること気付くことができるよう、校舎内や校庭にあるものの向きを変えて撮った写真を用意する。	◇校舎内や校庭にある身近な風景を写真に撮って、自分が働きかけるものや場所を決めている。 <行動②>
あら わす ・ひ ろげ る	1	○校舎内や校庭を見て回り、別のものに見えるものや場所を探し、働きかけて写真を撮る。	○元の形や見え方を生かして見立てたてるよう、撮影する際の角度や距離などの視点を提示する。	◇班のイメージを確認し、余計なものを取り除いたり、付け変えたりしながら、写真を撮っている。 <行動・作品①>
ふり かえ る	1	○持ち寄った写真を学級で見合いながら、イメージできるものについて話し合う。	○様々な見方があることの面白さを感じることができるよう、活動の記録を紹介する機会を設定する。	◇様々な見え方に共感したり、新しい見え方を探そうとしたりしている。 <行動③>
共通事項	校舎内や校庭を見たり見立てたりする活動を通して、身近な風景の形や色、組合せなどを捉え、自分のイメージをもつ。			

題材	5 ころがれ どこまでも -工作に表す-		8・9・10月(10時間)
目標	高低差を利用したビー玉が転がる仕組みの作り方を考え、形や色、強度などを工夫して表すことができる。		
評価規準	(①知・技) 自分の意図したビー玉の動きになるように、仕組みにあった紙の扱い方や身边材の組合せを工夫して表している。 (②思・判・表) 高低差を利用したビー玉が転がる仕組みに興味をもち、どのように転がると楽しいか、全体の形や仕組みを考えている。 (③主体的態度) 自分や友達の作品で遊びながら、試行錯誤して表現の工夫や面白さなどを捉えている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○高低差を利用したビー玉が転がる仕組みを、筆記用具を並べたり、紙を使ったりして試しにつくる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     学習のめあて                      材料や接着の仕方を工夫して、高低差のある仕組みをつくり、ビー玉を転がして楽しもう                 </div>	○作品づくりへの興味をもてるよう、箱を使った高低差のあるビー玉が転がる仕組みを生かした参考作品を提示する。
あらわす・ひろげる	7	○ビー玉の転がる楽しい仕組みを考え、材料の扱いや接着を工夫してつくる。  	○自分の思い付いた楽しい仕組みをつくることのできるよう、加工のし易さや強度の違う色紙、画用紙、ケント紙、巻きダンボール、工作用紙を用意する。 ○自分の思い付いた楽しい仕組みに合わせた強度を得ることができるよう、構造的な強度をもつ、接着面の広い箱を用意したり、自分の使いたい箱を家庭から持ってくるよう指示したりする。 ○自分や友達のつくった仕組みで遊びながら、楽しいビー玉の転がる仕組みに気付いたり、思い付いたりできるよう、遊びながら見せ合う機会を設定する。  ○ビー玉の転がる仕組みが安定し、場所を移動しても遊べるように、形や接着方法を試しながら台座を決められるよう、様々な大きさの段ボールを用意する。
ふりかえる	1	○自分と友達の作品で遊びながら、よさや工夫を紹介し合う。	○ビー玉を転がして遊ぶ楽しい仕組みや、思い付いた仕組みを工夫につくる工夫を見付けることができるよう、自分と友達の作品で遊ぶ時間を確保する。
共通事項	ビー玉を転がして遊ぶ楽しい仕組みを紙でつくる活動を通して、形や色、組合せなどの感じを捉え、自分なりのイメージをもつ。		

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

○基本的なつくり方で、試しの作品をつくっている。  
<行動②>

○ダンボールの台座の形を鉛筆で書いたり、ダンボールの台座と箱を組み合わせたたりして、大まかな構造を試しながら決めている。  
<行動②>

○自分の思い付いた楽しい仕組みに合わせて、材料を選択したり、材料の組合せ方や接着の方法を工夫したりして、ビー玉が安定して転がることのできるようにつくっている。  
<行動・作品①>

○自分の作品の工夫した点を友達に紹介したり、友達の作品で遊びながら面白い点を賞賛したりしている。  
<行動・発言③>

図画工作科 4年

題材	6 すみですみか -造形遊びをする-			10月(4時間)
目標	学校の中の場所の様子を基に、そこにあると面白いすみかの形や色を考え、身の回りにある材料を生かしてつくることができる。			
評価 規準	(①知・技) 身近な場所の形状を基に考えたすみかの形や色に合った材料の組合せ方を工夫している。 (②思・判・表) 学校の中で見付けた場所の形状に合ったすみかの形や色を考えている。 (③主体的態度) 友人が見付けた場所と、そこに合わせてつくりだしたすみかの形や色の面白さを感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○自分たちのすみかをつくるとしたら、どの場所が活用できそうか考える。  学習のめあて 学校の中の場所の形や色を生かして、小人のすみかをつくろう	○階段のコーナーや柱など、その場所の建造物の生かし方に気付くことができるよう、教室の隅で空間の作り方を演示する。	◇ <b>校舎内や校庭にあるものの構造を基に、すみかをつくる場所を選んでいる。</b> <b>&lt;行動②&gt;</b>
あら わす ・ ひろ げる	2	○いろいろな材料を試しながら、つくりたいすみかをつくる。	○片付けや持ち運びがし易いよう、最初の1時間は大きさなどを試しながら部品をつくり、後半の1時間で組み立てる製作の過程を示す。	◇ <b>校舎内や校庭にあるものの構造を生かした区切り方やその場所に合った形や色になるよう、材料の組み合わせや加工の仕方を工夫している。</b> <b>&lt;行動①&gt;</b>
ふり か え る	1	○できたすみかを互いに訪問し、つくったすみかやそこでの暮らし方などを友達と紹介し合い、互いのすみかのよさや面白さに気付く。	○訪問した際に互いの考えを共有することができるよう、感想を貼って残すための付箋を用意する。	◇ <b>温度や広さなど身体感覚を働かせて、すみかに入って感じたことや気付いたことを話したり、記述したりしている。</b> <b>&lt;発言・振り返り③&gt;</b>
共通事項	身近な場所や材料の形や色をとらえ、すみかをつくるイメージをもつ。			

題材	7 彫って重ねて木版画 —絵に表す—		10・11・12月(14時間)
目標	自分が表したいことを多版多色刷り版画に表す活動を通して、彫り跡やインクの色を重ねるを生かしてイメージや思いに合う表し方を考え、版を重ねてできる彫り跡やインクの色を感じが分かったり、彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫したりするとともに、彫ったり刷ったりする活動を楽しむことができる。		
評価規準	(①知・技) 版を重ねてできる彫り跡やインクの色の変化に気づき、自分の表したいことを基に、彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫している。 (②思・判・表) 版を重ねてできる彫り跡やインクの色からイメージや思いをもち、彫り跡やインクの色を重ねるを生かしてイメージや思いに合う表し方を考えている。 (③主体的態度) 版を彫ったり刷ったりする活動を楽しむとともに、版を重ねてできる彫り跡やインクの色の変化や面白さを感じ取るようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○単色刷りの版画と多色刷りの版画を鑑賞し、気付いたことや感じたことを話し合う。	○多版多色刷り版画の表現への関心が高まるように、一つの版を単色で刷った作品と、重ねて多色刷りにした作品とを用意する。
	2	○彫り方や刷り方を試し、版を重ねてできる彫り跡やインクの色から、自分の表したいことについてのイメージや思いをもつ。  — 学習のめあて — 自分の表したいことを、彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫して、多版多色刷り版画で表そう	○彫刻刀の種類や動かし方、位置、量による彫り跡の違いを感じ取れるように、彫り方を試す場面を設定する。
あらわす・ひろげる	10	○自分の表したいことを表すために、版木に下絵をかいて彫ったり、刷ったりする。 ・アイデアスケッチをかいたり、下絵をかいたりする。 ・彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫して彫ったりする。 ・複数の版木を重ねて刷る。	○複数の彫り跡やインクの色を重ねるを考慮して下絵をかけるように、透かして重ねが見えるトレーシングペーパーを用意する。  ○正しい扱い方で、彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫できるように、試し彫りができる材料を用意する。  ○複数の版と紙の位置を合わせて刷れるように、刷るための手順の演示を行う。
ふりかえる	1	○互いの作品を見合い、よさや面白さを見付ける。	○自他の作品のよさや面白さを感じ取れるように、互いの作品や活動の過程を自由に見合える環境を設定する。
共通事項	多版多色刷り木版画で想像の世界を表す活動を通して、2版の重なりによって生まれる形や色、組合せの感じを捉え、自分のイメージをもつ。		

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇提示された単色刷りの版画と多色刷りの版画の作品を比較鑑賞し、気付いたことや感じたことについて発言している。  
<発言③>

◇版を重ねてできる彫り跡やインクの色からもらった、自分の表したいことについてのイメージや思いについて発言している。  
<発言②>



◇自分の表したいことのイメージや思いに合う表し方を考えながら版木に下絵をかいている。  
<行動・作品②>

◇自分が表したいことに合わせて彫刻刀の種類や動かし方、位置、量を工夫して版木を彫っている。  
<行動・作品①>

◇多版多色刷り版画のよさや、重ねてできる彫り跡やインクの色の変化や面白さを感じ取り、記述している。  
<振り返り③>

図画工作科 4年

題材	8 顔を出したら ―工作に表す―			11・12月(6時間)
目標	自分のイメージや思いを基に表したいことを見付け、穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と、穴の周りの構成や配色など周りの表し方を工夫することで形や色の感じが分かり、パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さを見出すことを楽しめる。			
評価規準	(①知・技) 表したいことを基に、穴の大きさや位置、数などの穴の開け方と周りの構成や配色などの周りの表し方を工夫する中で、形や色の感じが分かる。 (②思・判・表) 顔を出して感じたことや想像したことから自分が表したいことを見付け、自分なりのイメージや思いを基に、穴の開け方や周りの表し方の工夫を考えている。 (③主体的態度) 穴から顔を出したり友達が顔を出す様子を見たりし、パネルと顔が合わさって完成する作品の、よさや面白さを見いだすことを楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○穴を開けた段ボールから顔を出したり、穴の周りにペンで絵をかいたりし、穴の開け方や周りの表し方によって感じ方が異なることを知り、顔を出して楽しむ作品をつくるという見通しをもつ。  学習のめあて 穴の開け方や周りの表し方を工夫して顔を出した人や見た人が楽しめる、顔出しパネルをつくろう	○同じ机で活動する子ども同士で顔を出したり、穴の周りにペンで絵をかいたり、互いに見合ったりできるように、机に2枚、穴の大きさや位置、数が異なる段ボールと、1セットのカラーペンを用意する。	◇穴から顔を出したり、友達が顔を出す様子を見たりし、穴の周りにペンで絵をかきながらイメージや思いを広げる活動を楽しむ発言をしている。 <発言③>
あらわす・ひろげる	4	○自分の表したいことを考え、段ボールを用いて表す。 ・表したいことを基に、アイデアスケッチをする ・段ボールに下がきをする。 ・下がきを基に、穴を開けたり着色をしたりする。	○自分なりのイメージや思いを基に表したいことを考えられるように、前時に試した段ボールを提示しておき、自由に見たり顔を出したりできる環境を設定する。  ○穴の開け方と周りの表し方による感じ方の違いを試しながら表現できるように、工作用紙や画用紙を十分に用意する。  ○周りの構成や配色に合わせて効果的に用具を使い分けられるように、絵の具、スポンジローラー、刷毛を教室の中央に用意し、カッターと段ボールカッターを各机に配布する。	◇自分なりのイメージや思いを基に表したいことを考え、アイデアスケッチに表している。 <アイデアスケッチ②>  ◇穴の開け方や周りの表し方の工夫を考えながら下がきをしている。 <作品②>  ◇穴の開け方や周りの表し方を工夫し、形や色の感じについて振り返りに記述している。 <作品・振り返り①>
ふりかえる	1	○互いのパネルを見合い、友達のパネルから顔を出したり、顔を出している友達の様子を見たりして、パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さを伝え合う。	○穴の開け方や周りの表し方による、よさや面白さに気付けるように、作品から顔を出した様子を写真撮影しながら鑑賞する機会を設定する。	◇パネルと顔が合わさって完成する作品のよさや面白さについて記述している。 <振り返り③>
共通事項	課外 ○他学年の子どもに向けた、顔出しパネルの展覧会を行う。 顔出しパネルを、穴の大きさや位置、数と、周りの構成や配色の視点で捉え、自分のイメージや思いをもつ。			

題材	9 光でかざろう			1・2・3月(12時間)
目標	全体のつながりを意識しながら、線のつながりや色の組合せを工夫し、工作用具を適切に扱ってステンドグラスをつくることができる。			
評価規準	(①知・技)ステンドグラスの美しさや光を生かした表現の特徴を生かして、カッターナイフで切り抜いたり、つながりや美しさを意識して彩色したりする。 (②思・判・表)卒業や入学を祝うためのテーマや場面に合わせて、背景の線の入れ方、色の組合せを工夫する。 (③主体的態度)ステンドグラスの表現のよさや、気持ちを伝えるための主題設定の価値を実感する。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○卒業式に向けて、体育館ギャラリーの窓に6人1組でつくったステンドグラスを飾ることを知り、テーマについて話し合う。  学習のめあて 卒業や入学をお祝いする気持ちが伝わるように、切り方や色を工夫して光の絵をかき、体育館を飾ろう	○学習の見通しをもつことができるよう、卒業式にふさわしいテーマについて話し合う機会を設定する。	◇卒業にふさわしい場面を話し合い、共同でつくることを楽しんでいる。 <行動・発言②>
	3	○3人～5人1組でグループをつくり、つくりたいテーマを決め、アイデアスケッチをかく。 ○切り抜いたときに落ちる部分がないように、線のつながるところや切り抜く部分の大きさを考えて厚紙に下絵をかく。	○ステンドグラスにあった下絵を思い付くことができるよう、友達と相談しながら、アイデアスケッチをする時間を設定する。 ○線の丈夫さやビニルを貼るための太さを考えて、墨で下絵の線を太く塗る。 (周りの枠…4cm以上、線…2cm以上)	◇単純化したり、省略したり、絵がつながるように周りの下絵と線を合わせたり、背景を波線や模様などで処理したりしてアイデアスケッチをかいている <行動・学習プリント②>
あらわす・ひろげる	7	カッターナイフで白い部分を切り抜く。 裏からビニルを貼り、色の組み合わせや配色を考えて油性カラーペンで着色する。	○切り抜いたときに落ちる部分がないよう、友達と見合いながら切りぬく時間を設定する。  	◇表したいものが分かるように、つながりを考えて下絵をかいたり、カッターナイフを適切に扱って切り落としがないように切ったり、配色を考えて色を塗ったりしている。 <行動・作品①>
	1	○窓に飾り、ステンドグラスの美しさを味わう。	○ステンドグラスの美しさや光を生かした表現のよさなどに気付くことができるよう、他のクラスの作品も含めた鑑賞会を設定する。	◇色面を黒で分割することで生まれる引き締まった感じや発色の美しさ、光を生かした表現のよさなどに気付いている。 <行動・学習プリント③>
共通事項	紙とビニルシートを使ったステンドグラスを共同で表す活動を通して、黒い縁取りとそれによって生まれる色の鮮やかさ、光を受けて変わる見え方の違いの感じを捉え、自分のイメージをもつ。			

題材	10 ひかりの世界 ―造形遊びをする―		2月(6時間)
目標	カラーセロハンを光に当てると色が変わることや、光を通すと色が写し出されることから光の面白さに気づき、自分のイメージや思いを基に、貼り付けるカラーセロハンの色の配置や組合せ方、傘の置き方を工夫することで、光による色の変化や場所の感じが変わることを楽しむことができる。		
評価規準	(①知・技) カラーセロハンを光に当てると色が変わることや、光を通すと色が写し出されることにより、光による色の変化や場所の感じが変わることに気づき、手や体全体の感覚を働かせながら、カラーセロハンの色の配置や組合せ方、傘の置き方を工夫している。 (②思・判・表) カラーセロハンの色の変化や写し出される色などを基に自分のイメージや思いをもち、光を基にした色の配置や組合せ方、傘の置き方や置く場所を試しながら、造形遊びを広げる方法を考えている。 (③主体的態度) 光に当てたときと当てないときのカラーセロハンの色を比べたり、色が写し出されたときと写し出されていないときの場所の感じを比べたりし、イメージや思いを広げる活動を楽しむことができる。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点(☆は、研究に関わる手立て)
であう	2	○カラーセロハンを組み合わせながら、光に当てる。  学習のめあて カラーセロハンの色に注目して光の面白さを見付けよう	○光による色の変化を自分なりに見だしたいという思いがもてるよう、グループに4色1組のカラーセロハンを用意する。
	3	○透明なビニル傘にカラーセロハンを貼り付けたり、光を通して色を写し出したりする。	○カラーセロハンの枚数や色の配置、組合せ方を変えながら、写し出される様々な色を感じ、自分なりの色のよさを見だせるように、大きさや長さの異なるカラーセロハンを十分に用意する。  
あらわす・ひろげる			◇カラーセロハンの枚数や色の配置、組合せ方を試しながらビニル傘に貼り付けたり、光を通して写し出される色から自分のイメージや思いを広げたことを発言したりしている。 <行動・発言①>
ふりかえる	1	○カラーセロハンを貼り付けたビニル傘の、置き方や置く場所を工夫しながら、色を写し出す。	◇場所と写し出される色の組合せ方によって、場所の感じが変化することに気付けるよう、傘の置き方や置く場所の工夫について共有する機会を設定する。  ◇写し出される色によって場所の感じが変化したことを記録写真に残し、光の多様な価値について記述している。 <記録写真・振り返り①②③>
共通事項	光を通してできる形や色の美しさや面白さを感じながら、身近な場所を変える活動を通して、形や色などを捉え、自分のイメージをもつ。		